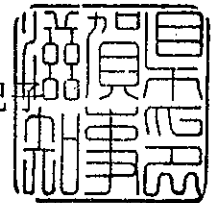




滋 道 第 6 9 9 号
平成20年(2008年)10月20日

国土交通省道路局長 様

滋賀県知事 嘉田由紀



今後の道路行政についての意見・提案について（提出）

平成20年9月19日付け国道企第37号で依頼のありました
標記の件について、下記のとおり提出します。

記

1. 意見・提案

- ①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など(様式①)
- ②地域の現状と抱える課題(様式②)と目指すべき将来像(様式③)
- ③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)(様式④)

別添様式①～④のとおり

本県は近畿圏、中部圏、北陸圏の結節点に位置する交通の要衝でありながら、本県の骨格を形成する主要な幹線道路の整備が遅れており、随所で交通渋滞が発生しています。

一方、橋梁などの道路施設の老朽化が今後さらに進むことから計画的な維持補修を進める必要があります。

その為の財源は必要不可欠と考えており、道路特定財源の一般財源化が閣議決定されたところですが、これらに必要な財源を継続的かつ安定的に確保されるようお願いします。

また、地方分権の議論がなされていますが、地方が主体的な判断で道路整備を行えるよう財源の配分強化にも配慮願います。

○現状

本県では、県土の中央に琵琶湖を擁する地形的特性から、県内主要地域間相互を連絡する環状道路と、県外に伸びる放射状道路による「環びわ湖放射状ネットワーク」で幹線道路網が形成されています。それらを構成する名神高速道路、新名神高速道路、国道1号、8号といった国土幹線軸を有しているものの、県内国道の4車線区間が近隣府県に比べて少なく、主要幹線道路の渋滞が慢性化しています。さらに主要幹線道路の渋滞を避けて通過交通が生活道路に入り込み、地域の住民が危険にさらされています。

また、県内における公共交通機関の状況から自動車交通に依存せざるを得ない事情があり、一人当たり自動車保有台数が多く、道路整備の遅れも相まって交通事故が増加しています。

県西部に琵琶湖西岸断層帯を有し、高い確率で断層を震源とする地震が発生するとされており、ひとたび地震が発生すれば交通の分断などで被害が拡大する恐れがあります。

道路の維持管理の面においては、高度経済成長期に建設された橋梁の多くが今後、寿命を迎え、1980年代のいわゆる「荒廃するアメリカ」の再現が危惧されています。

○課題

幹線道路網を構成する直轄国道および県管理幹線道路の整備による渋滞対策を最優先で進める必要があります。

今後も、人口増加が見込まれる本県では、安全安心な生活環境の確保のため、幹線道路網の整備による通過交通と生活交通との分離とともに歩道整備など交通安全対策が課題となっています。

琵琶湖西岸断層帯地震に備え、緊急輸送道路の整備等の災害対策が急務となっています。

老朽化する道路施設に適切な予防保全を行って長寿命化し、維持管理費のコスト縮減と予算の平準化を図るなど計画的な維持管理が課題となっています。

本県は、近畿圏、中部圏、北陸圏の結節点に位置し、交通の要衝であるという地理的な優位性を有し、琵琶湖をはじめとする豊かな自然や歴史資源、文化・芸術環境に恵まれています。また、理工系をはじめ、スポーツ、芸術等多彩な大学や民間研究所が多数立地し、知的財産が集積しています。

全国的には人口減少が加速する中、本県はこれからも人口増加が見込まれる数少ない県であり、地理的な優位性や知的財産の集積といった滋賀の強みを伸ばして、次の時代の滋賀を創造していくことを目標としています。その取り組みを展開していく上で、社会基盤の充実、特に道路整備は強く求められているところです。

○重点事項 ・地域活力の向上	○代表事例 新名神高速道路の「当面着工しない区間」とされている「大津市～城陽市」間の整備	○期待する効果や評価等 本県では名神高速道路の利便性により高速道路沿線で産業が集積し、内陸工業県として発展してきました。平成20年2月に「亀山市～大津市」間で新名神高速道路が部分開通したところですが、企業立地や観光に大きな効果が表れており、「大津市～城陽市」間の整備により、さらなる効果を期待しています。 また、新名神の供用後、大津以西の名神高速道路の交通量はますます増加し、その重要性が高まっています。そのため、「大津市～城陽市」間の整備を図ることにより、現名神との交通分散で渋滞を防いで、高速ネットワークの機能を維持し、また、地震等大規模災害の発生時には代替機能を果たすことを期待するものです。	○その他
---	--	--	-------------

○重点事項 ・都市交通の快適性、利便性の向上	○代表事例 国道1号大津山科道路の整備	○期待する効果や評価等 本県では地形的な制約から県南部に国土幹線軸が集中し、主要幹線道路の整備の遅れから県南部での渋滞が顕著となっています。 栗東水口道路など国道1号バイパスの整備が進められていますが、大津～山科間の整備によりバイパスとしての機能が十分に発揮されることとなります。 これにより通過交通が円滑に処理され、県南部で著しい渋滞の解消が期待されます。また、渋滞を避けて通過交通が生活道路へ入り込みことがなくなり、住民の安全安心な生活の確保が期待されます。	○その他
---	-----------------------------------	---	-------------